

## 第2章

# 子育て支援の施策ニーズ



# 1 アンケート調査結果からの施策ニーズ

## 1-1 地域における子育ての支援について

### (1) 平日の保育サービス利用意向

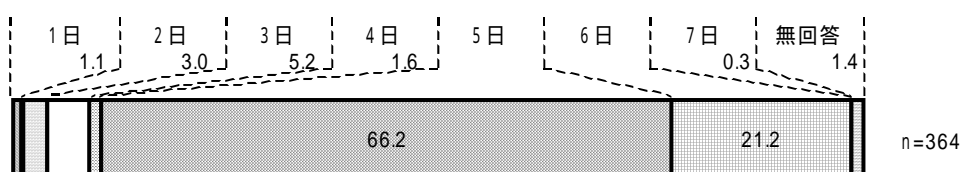
全体では「利用したい」が62.3%を占め、「利用希望はない」(35.1%)と大差がみられます。生後6ヶ月未満では「利用したい」と「利用希望はない」が同率となっていますが、全体の傾向として1歳までは「利用希望はない」が若干「利用したい」を上回り、2歳以上では「利用したい」が「利用希望はない」に対して2倍以上の利用意向がみられます。

平日の保育サービス利用意向

	利用したい	利用希望はない	無回答	合計
全体	62.3%	35.1%	2.6%	100.0%
生後6ヶ月未満	50.0%	50.0%	0.0%	100.0%
生後6ヶ月～1歳未満	43.5%	54.3%	2.2%	100.0%
1歳	45.7%	50.6%	3.7%	100.0%
2歳	73.3%	26.7%	0.0%	100.0%
3歳	65.0%	31.3%	3.8%	100.0%
4歳	76.4%	19.1%	4.5%	100.0%
5歳以上	60.8%	36.6%	2.6%	100.0%

平日に保育サービスの利用意向がある場合、その利用希望日数については、週あたり「5日」が66.2%で最も高く、次いで「6日」の21.2%となっています。これ以外の回答はそれぞれ1割未満となっています。

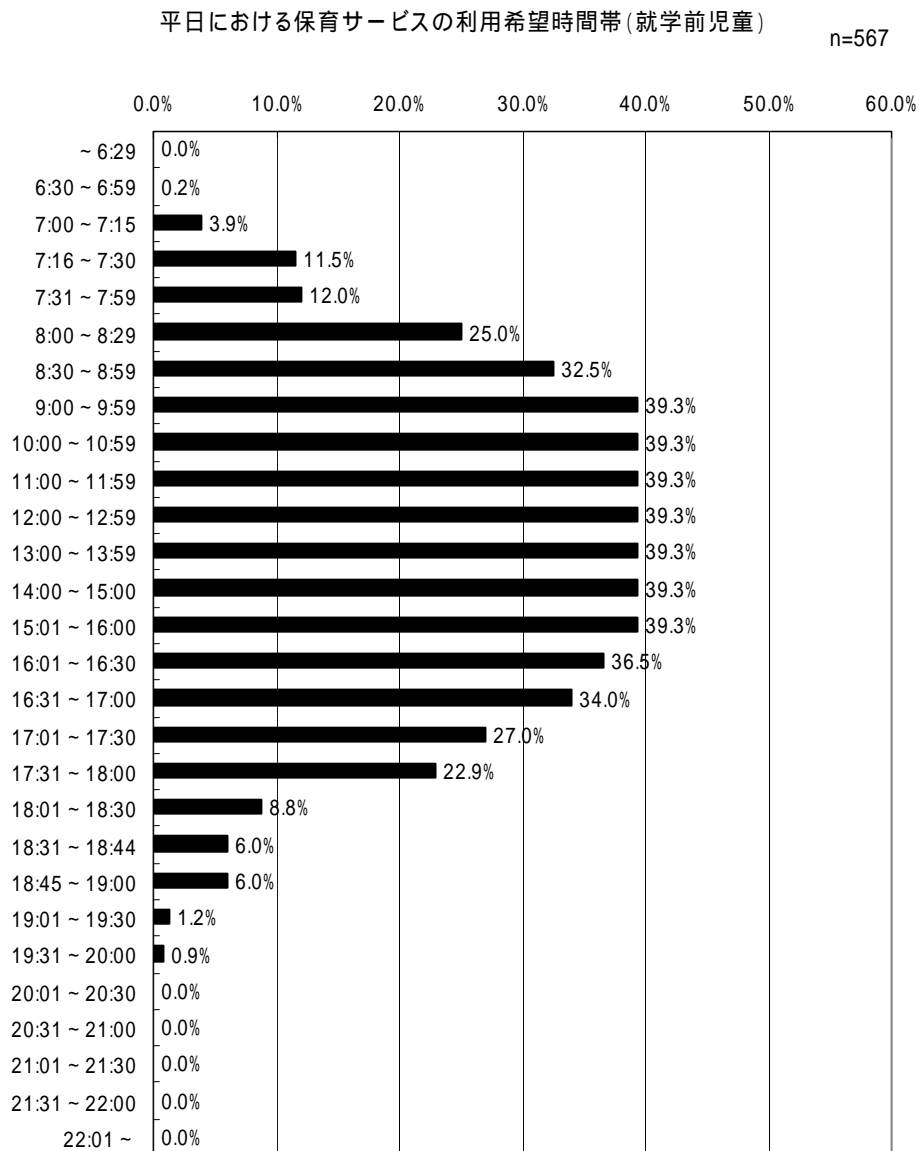
平日における保育サービスの利用希望日数(就学前児童)



平日に保育サービスの利用意向がある場合、時間帯毎の利用意向については、6:30～6:59の0.2%が最も早い利用希望時間帯となり、7:16～7:30、7:31～7:59の利用希望はそれぞれ1割強となっています。

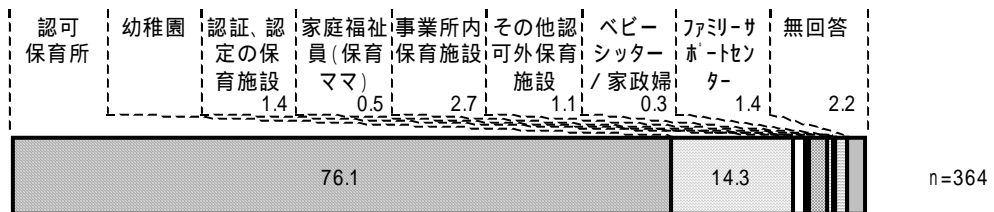
利用意向のピークは9:00～16:00までの4割弱で、それ以降は減少し17:31～18:00では22.9%、18:01～18:30では8.8%に減少しています。

最も遅い利用希望時間帯は、19:31～20:00の0.9%となっています。



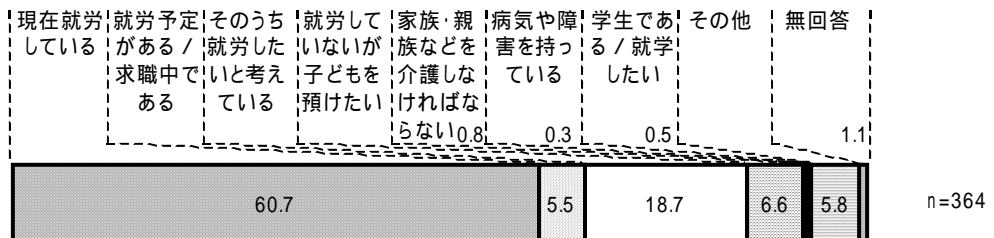
平日に保育サービスの利用意向がある場合、利用を希望する主なサービスについては「認可保育所」が76.1%を占め最も高く、「幼稚園」が14.3%が続いています。これ以外のサービスは、それぞれ1割以下となっています。

平日に利用を希望する主なサービス(就学前児童)



平日に保育サービスの利用意向がある場合、利用したい主な理由については「現在就労している」が60.7%で最も高く、「そのうち就労したいと考えている」が18.7%と続いています。

平日に保育サービスを利用したい主な理由(就学前児童)



## (2) 土曜日の保育サービス利用意向

全体では「利用希望はない」が61.5%で最も高くなっていますが、「ほぼ毎週利用したい」(16.6%)や「月1~2日利用したい」(16.4%)もそれぞれ2割弱みられます。

年齢別で見ると、各年齢ともに「利用希望はない」が高い割合を占めていますが、2~3歳の「ほぼ毎週利用したい」、生後6ヶ月未満の「月1~2日利用したい」では2割を超える利用意向があります。

## 土曜日の保育サービス利用意向

	ほぼ毎週 利用したい	月1～2日 利用したい	利用希望 はない	無回答	合計
全体	16.6%	16.4%	61.5%	5.5%	100.0%
生後6ヶ月未満	0.0%	21.9%	78.1%	0.0%	100.0%
生後6ヶ月～1歳未満	15.2%	8.7%	67.4%	8.7%	100.0%
1歳	14.8%	18.5%	59.3%	7.4%	100.0%
2歳	23.3%	19.8%	51.2%	5.8%	100.0%
3歳	22.5%	13.8%	62.5%	1.3%	100.0%
4歳	14.6%	16.9%	58.4%	10.1%	100.0%
5歳以上	15.0%	17.6%	62.7%	4.6%	100.0%

## (3) 日曜日・祝日の保育サービス利用意向

全体では「利用希望はない」が78.4%で最も高くなっていますが、「月1～2日利用したい」も12.7%みられます。

年齢別でみると、各年齢ともに「利用希望はない」が高い割合を占めていますが、「月1～2日利用したい」は2歳の18.6%を最高に各年齢で1割前後の利用意向があります。

## 日曜日・祝日の保育サービス利用意向

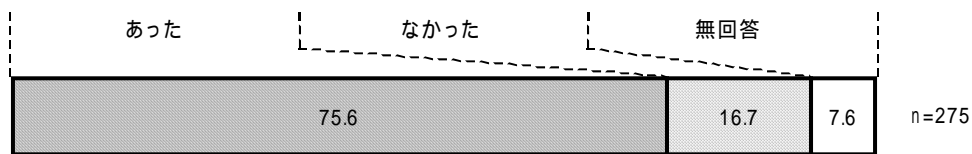
	ほぼ毎週 利用したい	月1～2日 利用したい	利用希望 はない	無回答	合計
全体	1.7%	12.7%	78.4%	7.2%	100.0%
生後6ヶ月未満	0.0%	12.5%	81.3%	6.3%	100.0%
生後6ヶ月～1歳未満	4.3%	6.5%	76.1%	13.0%	100.0%
1歳	2.5%	13.6%	79.0%	4.9%	100.0%
2歳	1.2%	18.6%	73.3%	7.0%	100.0%
3歳	1.3%	7.5%	88.8%	2.5%	100.0%
4歳	2.2%	12.4%	71.9%	13.5%	100.0%
5歳以上	1.3%	15.0%	77.1%	6.5%	100.0%

#### (4) 乳幼児健康支援一時預かり事業(施設型・派遣型の病後児保育)に関するニーズ

この1年間に子どもの病気を理由に利用している認可保育所や幼稚園等を休まなければならなかったことの有無について、保育サービス利用者の75.6%が「あった」と回答しています。

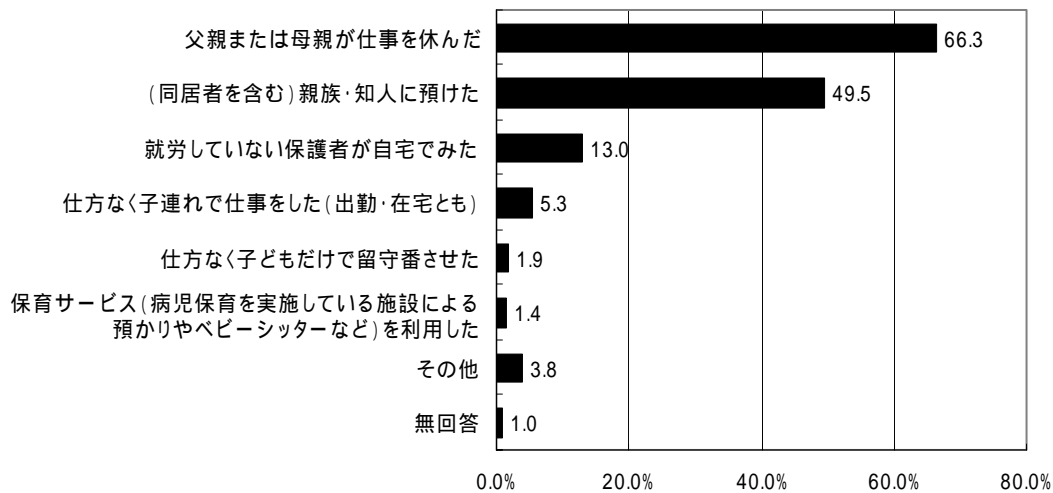
その場合の対処については「父親または母親が仕事を休んだ」が66.3%、「(同居者を含む)親族・知人に預けた」が49.5%となっています。

この1年間に病気で利用している保育サービス(認可保育所、幼稚園、認可外保育施設等)を休んことの有無(就学前児童)



保育サービスを休んだ場合の対処方法(就学前児童)

n=208

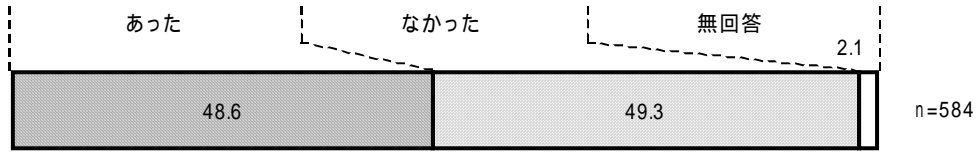


#### (5) 一時保育事業に関するニーズ

この1年間に冠婚葬祭や保護者や家族の病気等の理由により、就学前児童の面倒(日中)がみられなくなったことの有無について、約半数が「あった」と回答しています。

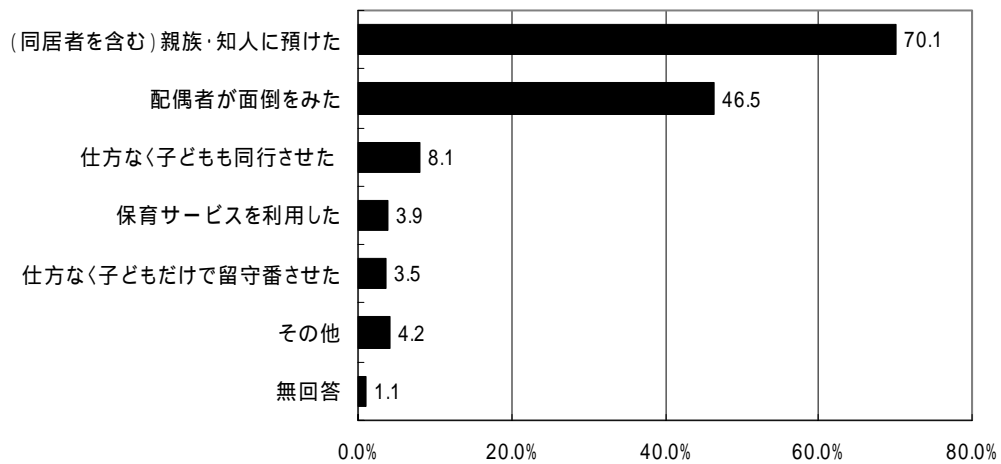
その場合の対処については、「(同居者を含む)親族・知人に預けた」が70.1%で最も高くなっています。

この1年間に緊急の用事(冠婚葬祭や保護者等の病気など)により、日中、子どもの面倒をみられなくなったことの有無(就学前児童)



緊急の用事における対処方法(就学前児童)

n=284



## (6) 子育て短期支援事業(ショートステイ事業)に関するニーズ

この1年間に保護者の用事などにより、子どもを泊りがけで家族以外に預けなければならなかったこの有無について、就学前児童では「あった」が13.7%、小学校児童では17.4%となっています。

その場合の対処については、就学前児童・小学校児童ともに「(同居者を含む)親族・知人に預けた」が9割以上を占めています。

この1年間に保護者の用事などにより、子どもを泊りがけで家族以外に預けなければならなかったことの有無(就学前児童)

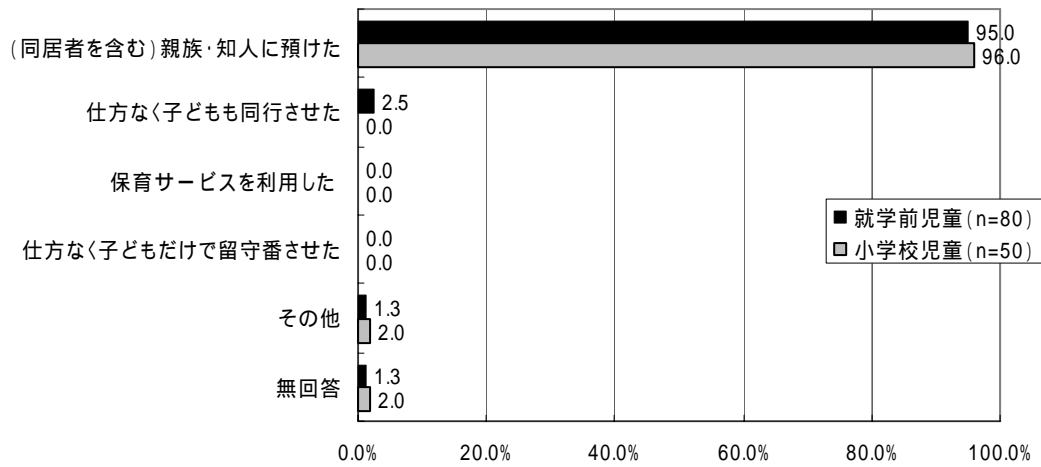




この1年間に保護者の用事などにより、子どもを泊りがけで家族以外に預けなければならなかったことの有無(小学校児童)



泊りがけの場合における対処方法



### (7) 平日の放課後児童クラブ利用意向

全体では「利用希望はない」が「利用したい」を上回っていますが、小学校3年生までは「利用したい」との意向が20～35%みられます。

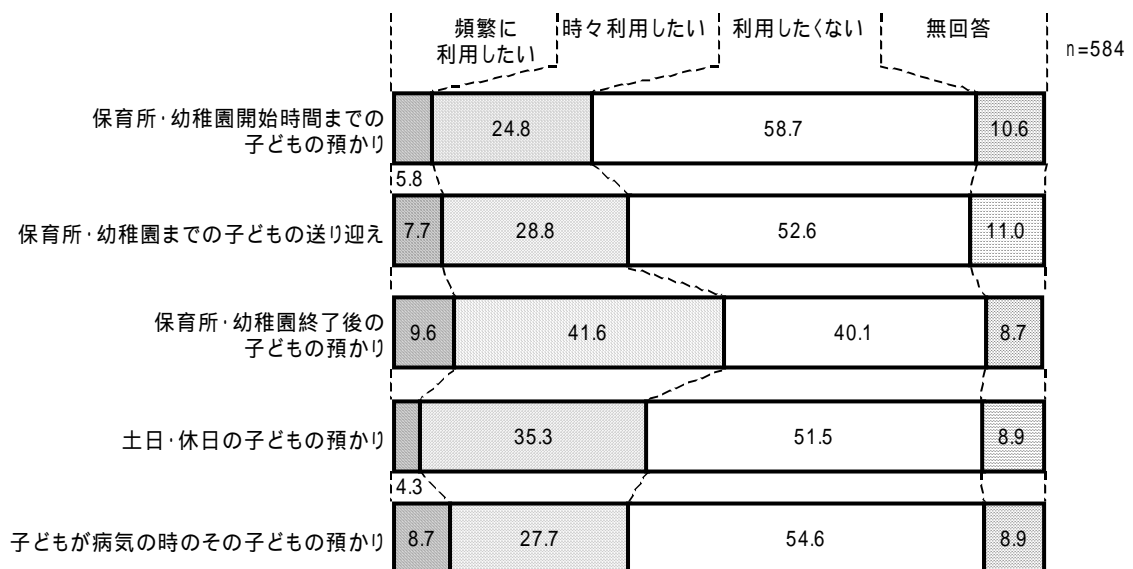
平日の放課後児童クラブ利用意向

	利用したい	利用希望はない	無回答	合計
全体	22.0%	77.4%	0.7%	100.0%
小学校1年生	24.7%	75.3%	0.0%	100.0%
小学校2年生	34.2%	64.6%	1.3%	100.0%
小学校3年生	19.7%	80.3%	0.0%	100.0%
小学校4年生	6.3%	93.8%	0.0%	100.0%
小学校5年生	5.6%	94.4%	0.0%	100.0%
小学校6年生	0.0%	90.0%	10.0%	100.0%

## (8) ファミリーサポートセンターの利用意向

ファミリーサポートセンターが設置された場合の利用意向については、「頻繁に利用したい」と「時々利用したい」を合わせると、想定される各サービスで30～50%の利用意向がみられます。中でも保育所・幼稚園終了後の子どもの預かりに関しては「時々利用したい」(41.6%)が「利用したくない」(40.1%)を上回っています。

ファミリーサポートセンターが設置された場合に利用したいサービス(就学前児童)

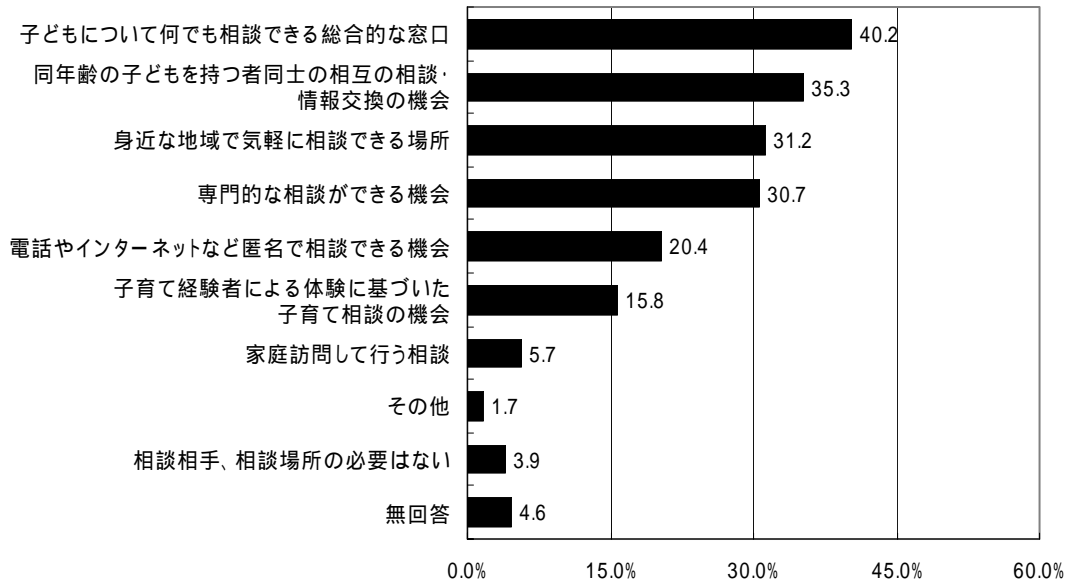


## (9) 子育てに関する相談相手や相談場所に関するニーズ

「子どもについて何でも相談できる総合的な窓口」を希望する回答が40.2%で最も高く、次いで「同年齢の子どもを持つ者同士の相互の相談・情報交換の機会」が35.3%、「身近な地域で気軽に相談できる場所」が31.2%、「専門的な相談ができる機会」が30.7%と続いています。

子育てについての相談相手や相談場所として希望すること(就学前児童)

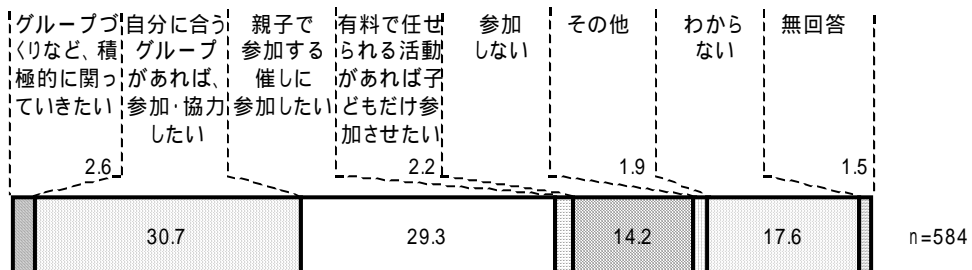
n=584



### (10) 子育てに関するサークルへの参加意向

「自分に合うグループがあれば、参加・協力したい」の30.7%が最も高く、次いで「親子で参加する催しに参加したい」が29.3%と続いています。これらと「グループづくりなど、積極的に関わっていききたい」とを合わせると、子育てに関するサークルへの参加意向は6割強となります。

子育てに関するサークルなど自主的な活動への参加意向(就学前児童)

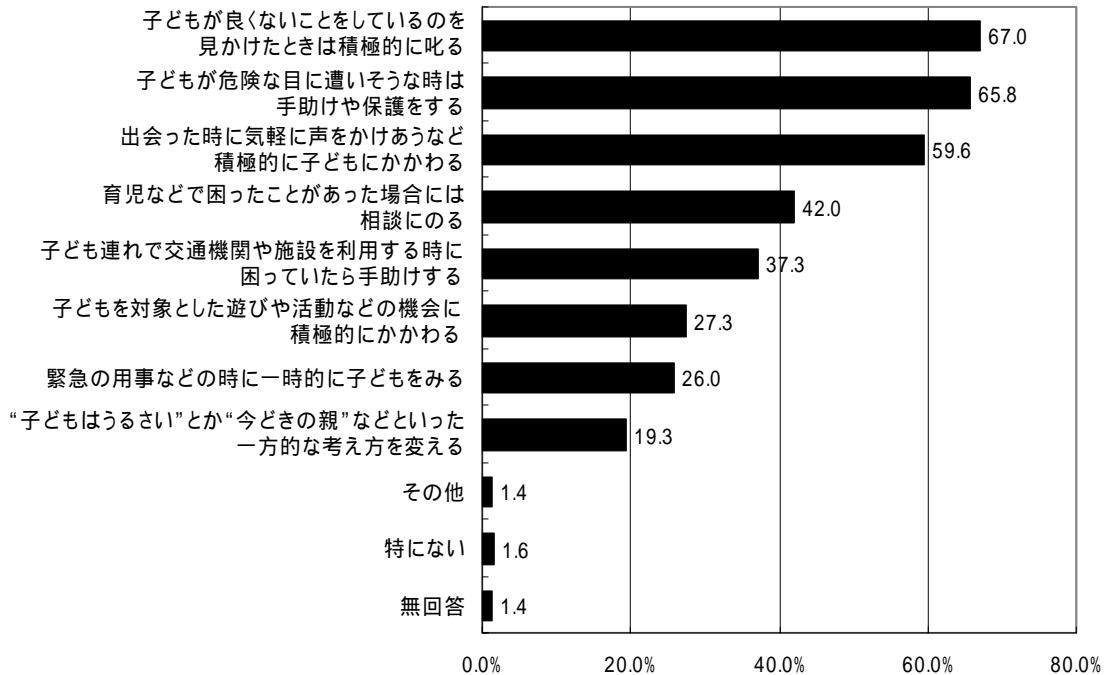


## (11) 地域全体で子育てをしていく上で必要だと思うこと(19歳以上一般住民)

「子どもが良くないことをしているのを見かけたときは積極的に叱る」が67.0%で最も高く、次いで「子どもが危険な目に遭いそうな時は手助けや保護をする」が65.8%、「出会った時に気軽に声をかけあうなど積極的に子どもにかかわる」が59.6%と続いています。

地域全体で子育てを支援していく上で必要だと思うこと(19歳以上一般住民)

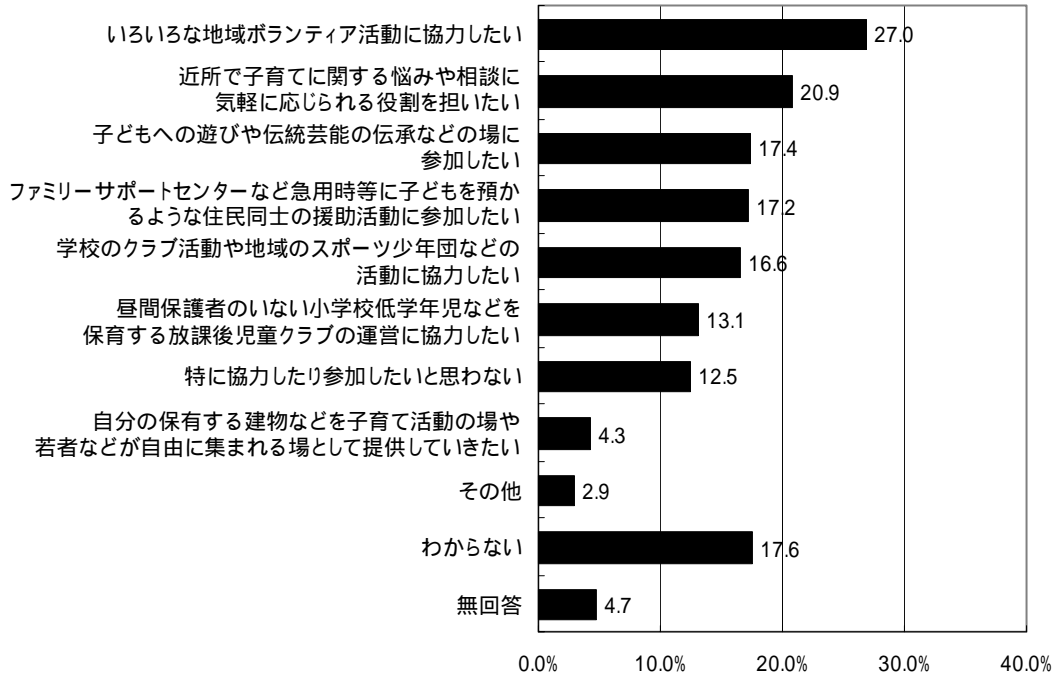
n=512



## (12) 地域での子育て支援活動等への参加意向(19歳以上一般住民)

「いろいろな地域ボランティア活動に協力したい」が27.0%で最も高く、次いで「近所で子育てに関する悩みや相談に気軽に応じられる役割を担いたい」が20.9%となっています。

地域で子育て支援や子どもの健全育成のために取り組みたいこと(19歳以上一般住民) n=512



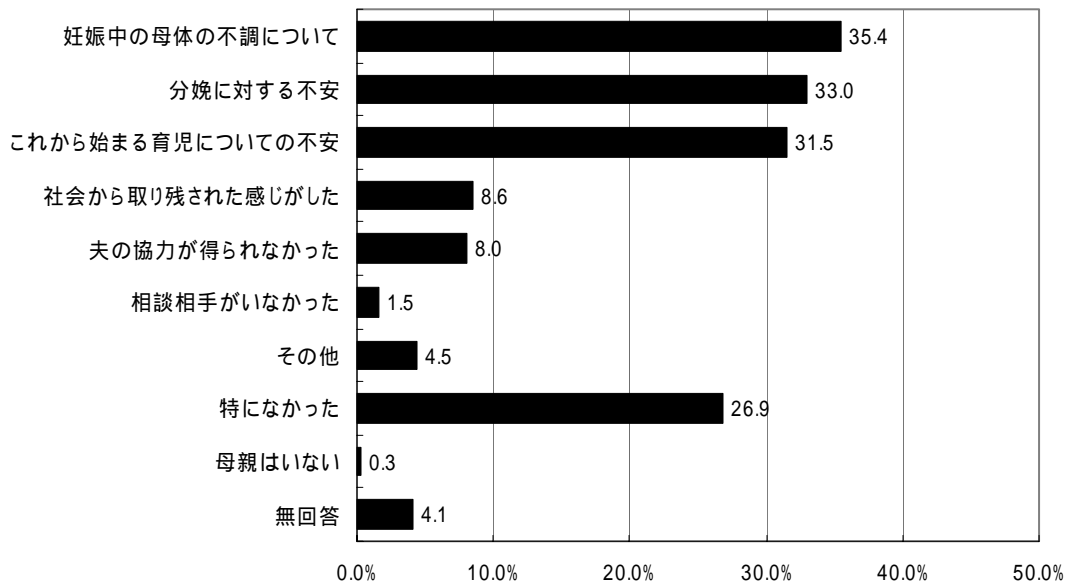
## 1-2 母性や乳幼児等の健康の確保及び増進について

### (1) 妊娠中や出産時の心配事や悩みごと

「妊娠中の母体の不調について」、「分娩に対する不安」、「これから始まる育児についての不安」との回答が3割を超えています。「特になかった」は26.9%となっています。

妊娠中や出産の心配ごとや悩みごと(就学前児童)

n=584

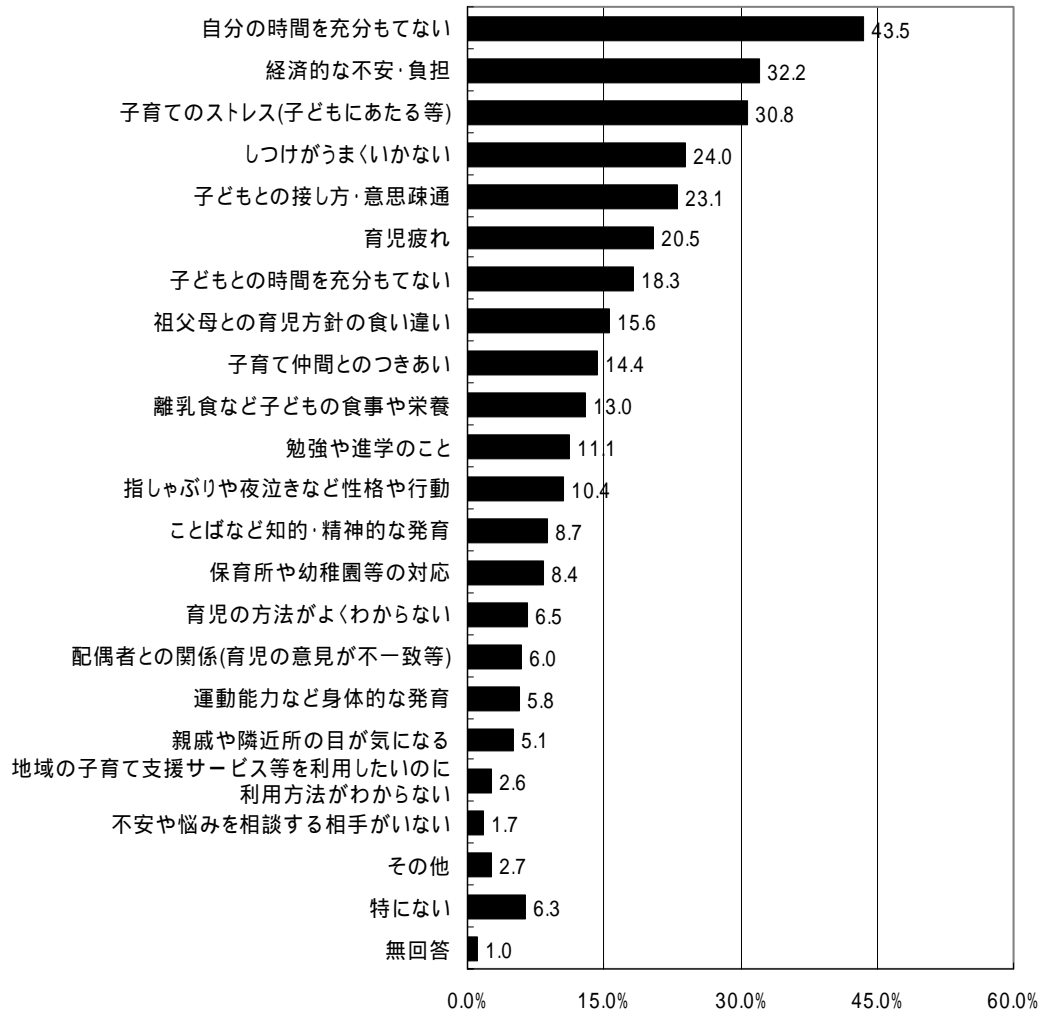


## (2) 育児に関する悩み

「自分の時間を充分もてない」が43.5%で最も高く、次いで「経済的な不安・負担」が32.2%、「子育てのストレス(子どもにあたる等)」が30.8%と続いています。一方、「特にない」はわずか6.3%となっています。

育児に関する悩み(就学前児童)

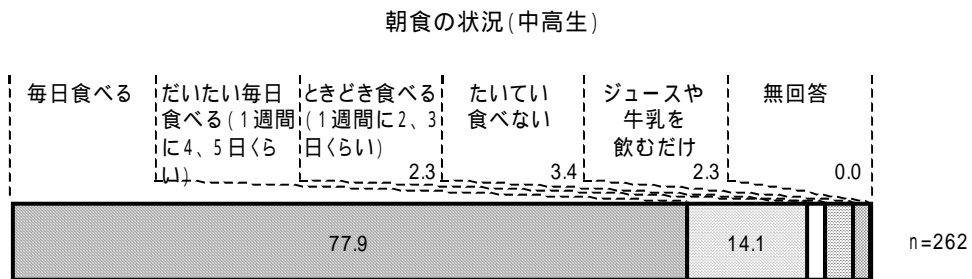
n=584



## 1-3 子どもの健やかな成長を目指した教育環境の整備について

### (1) 朝食の状況

「毎日食べる」が8割弱(77.9%)を占めていますが、「だいたい食べる(1週間に4、5日くらい)」も14.1%みられます。「毎日食べる」は学年が高くなるにつれ減少する傾向にあります。



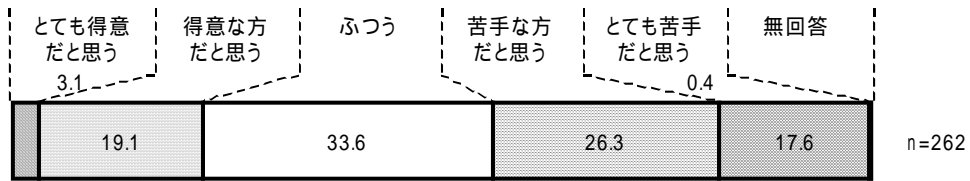
朝食の状況

	毎日食べる	だいたい毎日食べる (1週間に4、5日くらい)	ときどき食べる (1週間に2、3日くらい)	だいたい食べていない	ジュースや牛乳を飲むだけ	無回答	合計
全体	77.9%	14.1%	2.3%	3.4%	2.3%	0.0%	100.0%
中学1年生	87.3%	10.9%	0.0%	1.8%	0.0%	0.0%	100.0%
中学2年生	81.4%	16.3%	0.0%	0.0%	2.3%	0.0%	100.0%
中学3年生	80.0%	11.4%	5.7%	2.9%	0.0%	0.0%	100.0%
高校1年生	81.1%	8.1%	5.4%	5.4%	0.0%	0.0%	100.0%
高校2年生	75.0%	13.6%	2.3%	4.5%	4.5%	0.0%	100.0%
高校3年生	63.0%	23.9%	2.2%	6.5%	4.3%	0.0%	100.0%

### (2) 勉強について

「ふつう」が33.6%で最も高く、次いで「苦手な方だと思う」が26.3%、「得意な方だと思う」が19.1%と続いています。「とても苦手だと思う」との回答は、受験時期となる中学3年生で高くなっています。

## 勉強について(中高生)



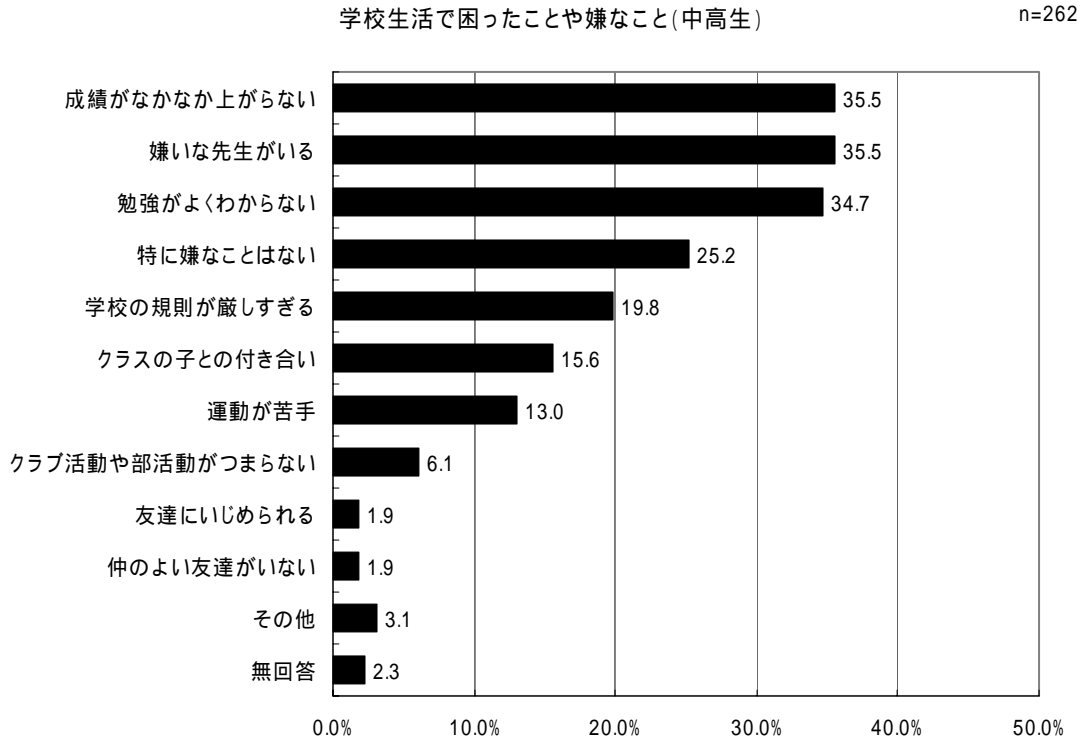
## 勉強について

	とても得意だと思ふ	得意な方だと思ふ	ふつう	苦手な方だと思ふ	とても苦手だと思ふ	無回答	合計
全体	3.1%	19.1%	33.6%	26.3%	17.6%	0.4%	100.0%
中学1年生	3.6%	23.6%	32.7%	29.1%	10.9%	0.0%	100.0%
中学2年生	4.7%	16.3%	25.6%	30.2%	23.3%	0.0%	100.0%
中学3年生	0.0%	25.7%	22.9%	20.0%	31.4%	0.0%	100.0%
高校1年生	2.7%	8.1%	51.4%	32.4%	2.7%	2.7%	100.0%
高校2年生	2.3%	29.5%	25.0%	18.2%	25.0%	0.0%	100.0%
高校3年生	2.2%	8.7%	45.7%	28.3%	15.2%	0.0%	100.0%



### (3) 学校生活での困ったことや嫌なこと

「成績がなかなか上がらない」、「嫌いな先生がいる」、「勉強がよくわからない」がほぼ同率で上位を占めています。「成績がなかなか上がらない」との回答は、中学3年生までの学年で高い傾向にあります。

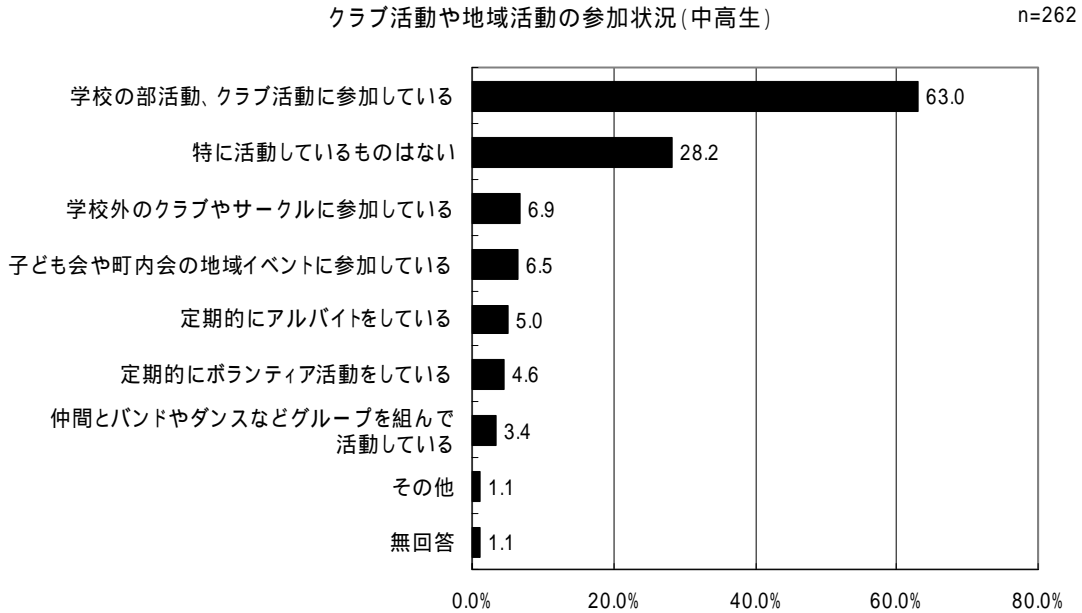


学校生活での困ったことや嫌なこと

	勉強がよくわからない	成績がなかなか上がらない	運動が苦手	嫌な先生がいる	友達にいじめられる	中のよい友達がいない	クラスの子との付き合い	学校の規則が厳しすぎる	クラブ活動や部活動がつまらない	その他	特に嫌なことはない	無回答	合計
全体	34.7%	35.5%	13.0%	35.5%	1.9%	1.9%	15.6%	19.8%	6.1%	3.1%	25.2%	0.4%	100.0%
中学1年生	36.4%	50.9%	21.8%	38.2%	3.6%	3.6%	20.0%	18.2%	9.1%	3.6%	12.7%	0.0%	100.0%
中学2年生	32.6%	44.2%	23.3%	46.5%	4.7%	4.7%	18.6%	27.9%	9.3%	2.3%	23.3%	0.0%	100.0%
中学3年生	37.1%	48.6%	11.4%	37.1%	0.0%	0.0%	8.6%	20.0%	0.0%	0.0%	25.7%	0.0%	100.0%
高校1年生	35.1%	18.9%	10.8%	21.6%	0.0%	0.0%	16.2%	13.5%	8.1%	2.7%	29.7%	2.7%	100.0%
高校2年生	34.1%	20.5%	6.8%	38.6%	2.3%	2.3%	18.2%	18.2%	6.8%	6.8%	27.3%	0.0%	100.0%
高校3年生	34.8%	28.3%	2.2%	30.4%	0.0%	0.0%	10.9%	19.6%	2.2%	2.2%	37.0%	0.0%	100.0%

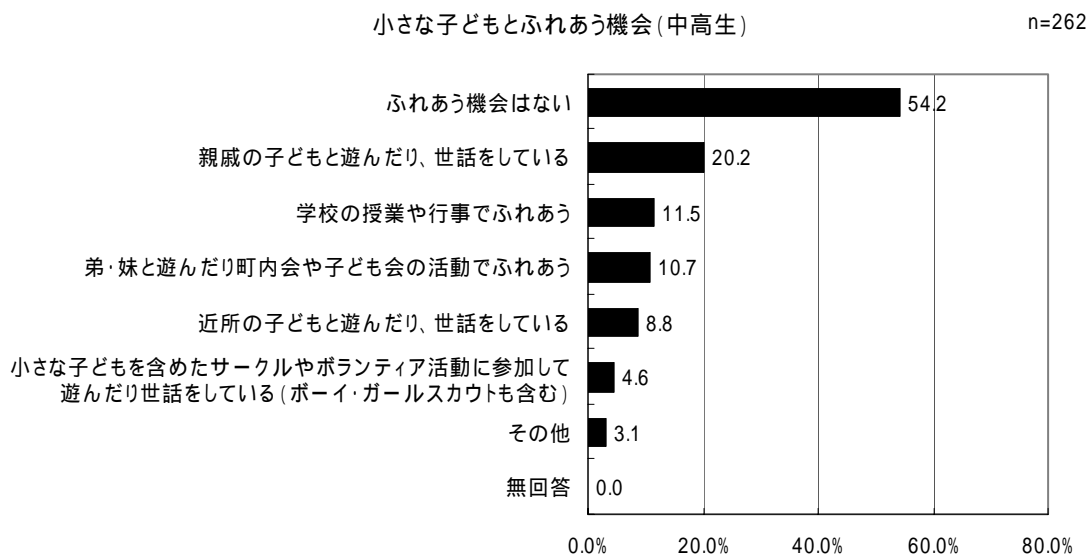
#### (4) クラブ活動や地域活動の参加状況

「学校の部活動、クラブ活動に参加している」が6割強(63.0%)で最も高く、「特に活動しているものはない」(28.2%)の約3倍となっています。



#### (5) 小さな子どもとふれあう機会

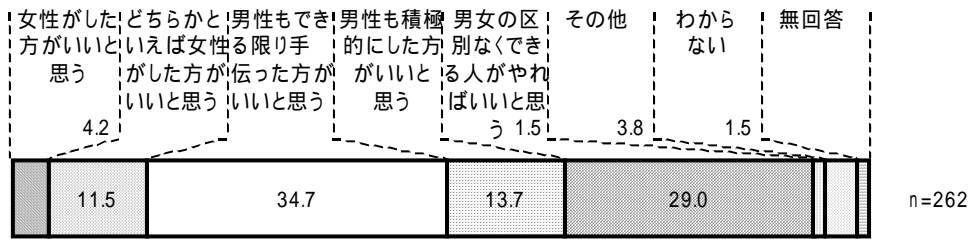
「ふれあう機会はない」が54.2%を占め、他の項目と大差がみられます。



### (6) 家庭での子育てや家事について

「男性もできる限り手伝った方がいいと思う」が34.7%で最も高く、次いで「男女の区別なくできる人がやればいいと思う」が29.0%、「男性も積極的にした方がいいと思う」が13.7%で続いています。

家庭での子育てや家事について(中高生)



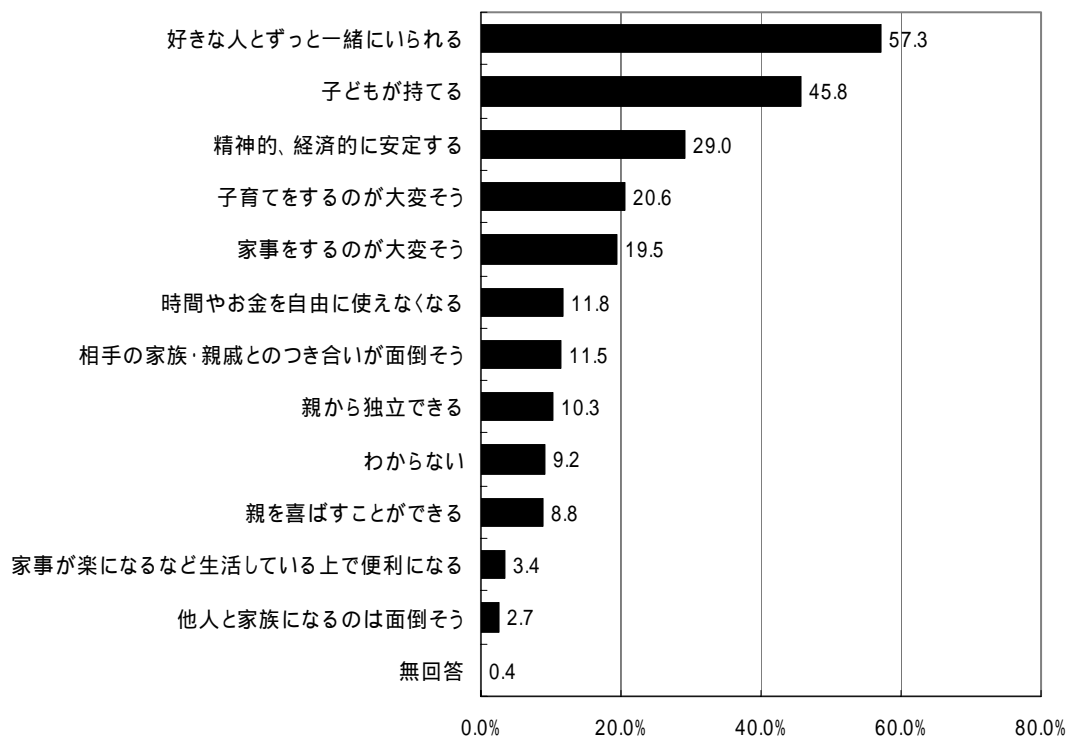
### (7) 結婚のイメージ

「好きな人とずっと一緒にいられる」が6割弱(57.3%)で最も高く、次いで「子どもが持てる」が45.8%、「精神的、経済的に安定する」が29.0%と続いています。

各学年ともに「好きな人とずっと一緒にいられる」、「子どもが持てる」、「精神的、経済的に安定する」が高い傾向にあります。また、「子育てをするのが大変そう」といった子育てに不安を感じている回答は、高校生で高くなる傾向がみられます。

結婚のイメージ(中高生)

n=262



## 結婚のイメージ

	好きな人とずっと一緒にいられる	精神的、経済的に安定する	子どもが持てる	親から独立できる	親を喜ばすことができる	時間やお金を自由に使えるようになる	家事をするのが大変そう
全体	57.3%	29.0%	45.8%	10.3%	8.8%	11.8%	19.5%
中学1年生	50.9%	27.3%	52.7%	7.3%	14.5%	9.1%	25.5%
中学2年生	67.4%	32.6%	44.2%	18.6%	9.3%	9.3%	20.9%
中学3年生	62.9%	20.0%	37.1%	17.1%	8.6%	11.4%	20.0%
高校1年生	51.4%	37.8%	43.2%	8.1%	8.1%	10.8%	10.8%
高校2年生	65.9%	22.7%	56.8%	6.8%	4.5%	13.6%	11.4%
高校3年生	45.7%	32.6%	37.0%	6.5%	6.5%	17.4%	26.1%

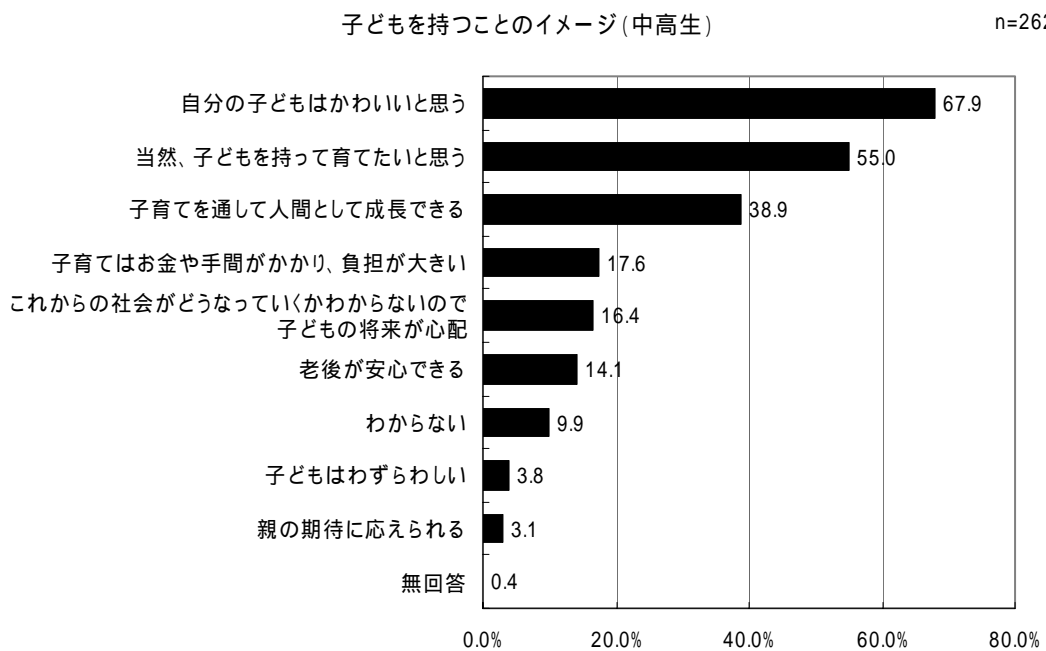
## 結婚のイメージ(つづき)

	子育てをするのが大変そう	家事や楽になるなど生活している上で便利になる	他人の家族になるのはめんどろそう	相手の家族・親戚とのつき合いがめんどろそう	わからない	無回答	合計
全体	20.6%	3.4%	11.5%	2.7%	9.2%	0.5%	100.0%
中学1年生	16.4%	1.8%	9.1%	3.6%	14.5%	0.0%	100.0%
中学2年生	16.3%	4.7%	11.6%	2.3%	7.0%	0.0%	100.0%
中学3年生	11.4%	2.9%	14.3%	8.6%	11.4%	0.0%	100.0%
高校1年生	35.1%	5.4%	10.8%	2.7%	8.1%	0.0%	100.0%
高校2年生	18.2%	2.3%	13.6%	0.0%	4.5%	0.0%	100.0%
高校3年生	28.3%	4.3%	10.9%	0.0%	8.7%	2.2%	100.0%

(8) 子どもを持つことのイメージ

「自分の子どもはかわいいと思う」が67.9%で最も高く、次いで「当然、子どもを持って育てたいと思う」が55.0%、「子育てを通じて人間として成長できる」が38.9%と続いています。

各学年ともに「自分の子どもはかわいいと思う」、「当然、子どもを持って育てたいと思う」、「子育てを通じて人間として成長できる」が高い傾向にありますが、「子育てはお金や手間がかかり、負担が大きい」については、高学年になるにつれ高くなる傾向がみられます。



子どもを持つことのイメージ

	当然、子どもを持って育てたいと思う	自分の子どもはかわいいと思う	老後が安心できる	子育てを通じて人間として成長できる	親の期待に応えられる	子育てはお金や時間がかかり、負担が大きい	子どもはわずらわしいと思う	これからの社会がどうなっていくかわからないので子どもの将来が心配	わからない	無回答	合計
全体	55.0%	67.9%	14.1%	38.9%	3.1%	17.6%	3.8%	16.4%	9.9%	0.4%	100.0%
中学1年生	49.1%	65.5%	23.6%	38.2%	5.5%	10.9%	3.6%	14.5%	12.7%	0.0%	100.0%
中学2年生	65.1%	72.1%	25.6%	34.9%	7.0%	11.6%	4.7%	23.3%	2.3%	0.0%	100.0%
中学3年生	48.6%	74.3%	8.6%	42.9%	0.0%	14.3%	5.7%	14.3%	11.4%	0.0%	100.0%
高校1年生	64.9%	70.3%	5.4%	40.5%	2.7%	16.2%	5.4%	18.9%	10.8%	0.0%	100.0%
高校2年生	50.0%	61.4%	6.8%	38.6%	0.0%	27.3%	4.5%	6.8%	13.6%	0.0%	100.0%
高校3年生	54.3%	65.2%	8.7%	39.1%	2.2%	26.1%	0.0%	21.7%	8.7%	2.2%	100.0%

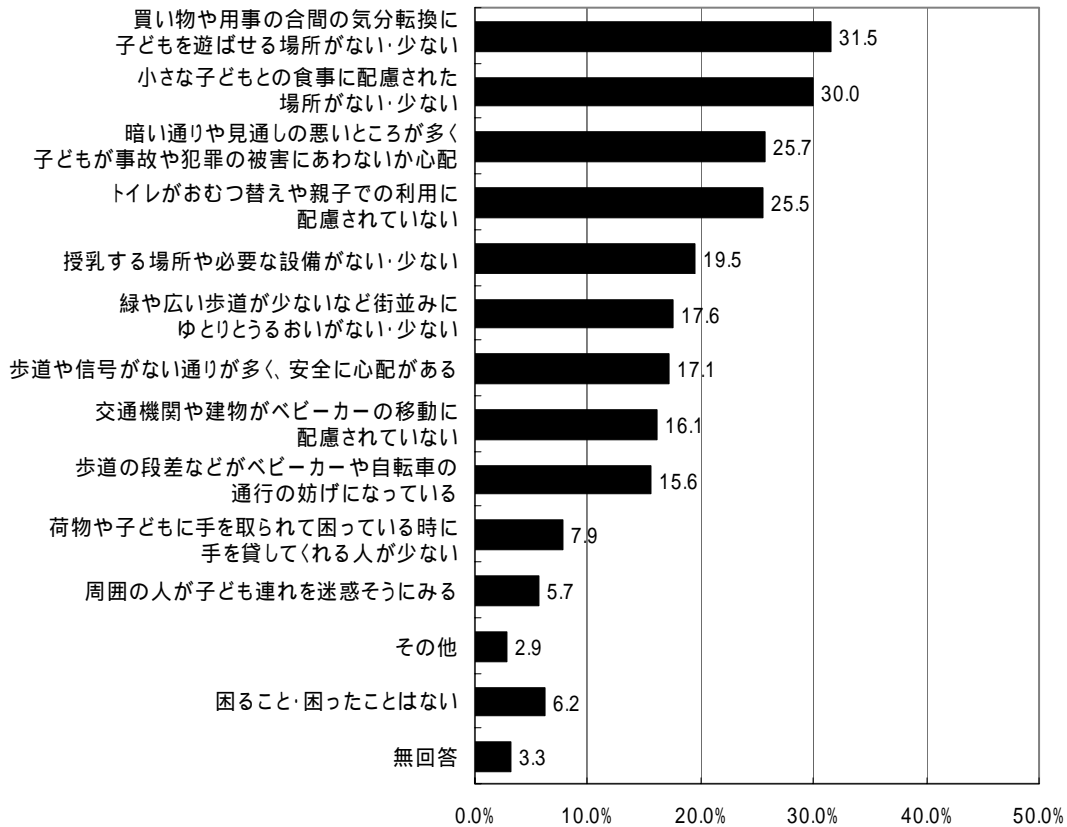
## 1-4 子育てを支援する生活環境の整備について

### (1) 子どもと外出する時に困ること

回答の差は僅かですが、上位4位では「買い物や用事の合間の気分転換に子どもを遊ばせる場所がない・少ない」が31.5%で最も高く、次いで「小さな子どもとの食事に配慮された場所がない・少ない」(30.0%)、「暗い通りや見通しの悪いところが多く子どもが事故や犯罪の被害にあわないか心配」(25.7%)、「トイレがおむつ替えや親子での利用に配慮されていない」(25.5%)の順となっています。

子どもと外出する時に困ること(就学前児童)

n=584



## 1-5 職業生活と家庭生活の両立の推進について

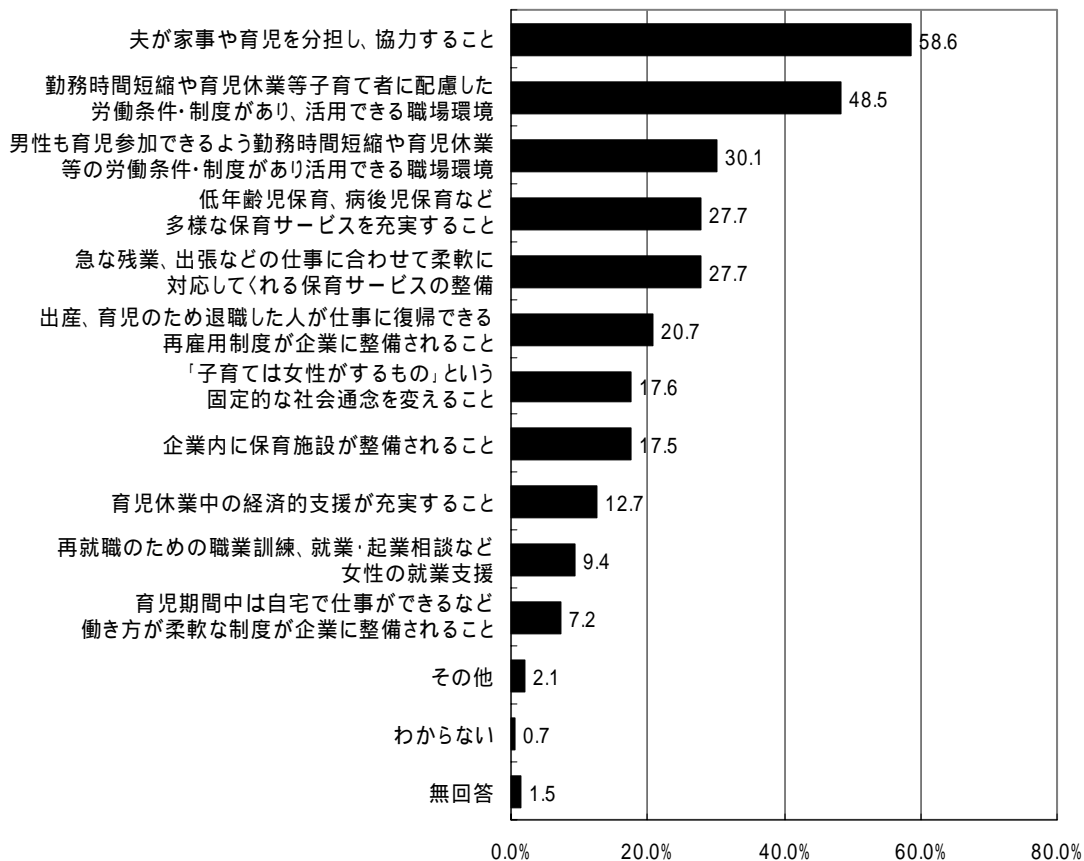
### (1) 女性が子育てと就労を両立するために必要と思うこと

「夫が家事や育児を分担し、協力すること」が58.6%で最も高く、次いで「勤務時間短縮や育児休業等子育て者に配慮した労働条件・制度があり、活用できる職場環境」が48.5%と続いています。

これ以外の項目では「男性も育児参加できるよう勤務時間短縮や育児休業等子育て者に配慮した労働条件・制度があり活用できる職場環境」(30.1%)を最高に、いずれも3割以下となっています。

女性が子育てと就労を両立するために必要と思うこと(就学前児童)

n=584

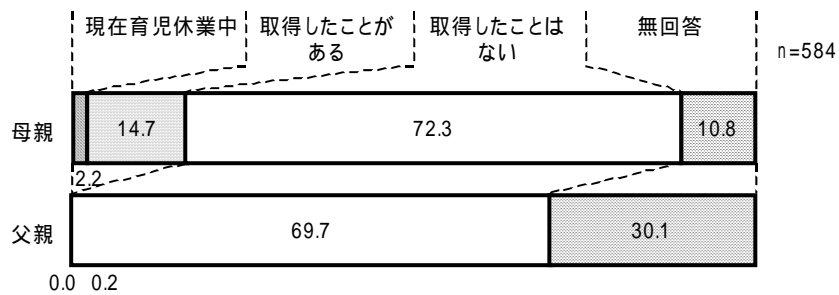


## (2) 育児休業の取得状況

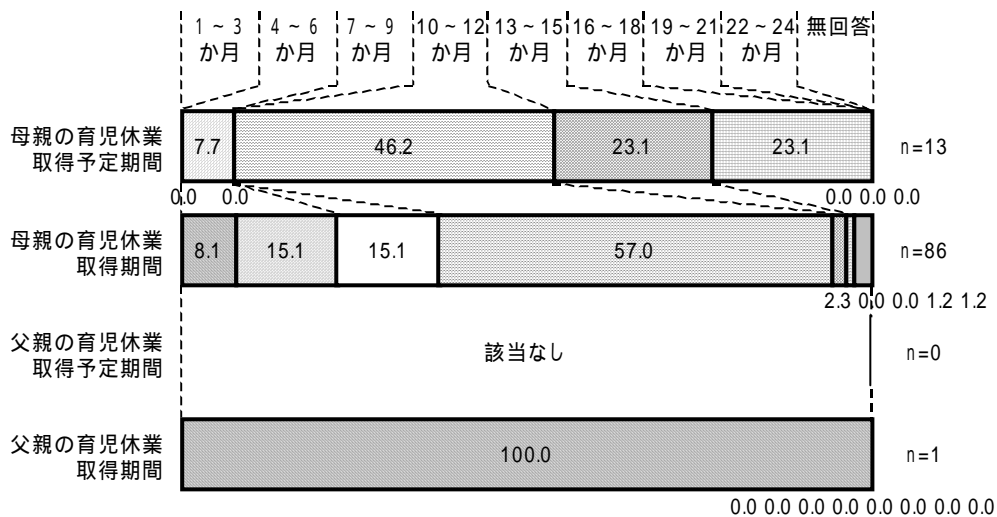
母親、父親ともに「取得したことはない」が7割前後を占めています。「現在育児休業中」や「取得したことがある」という回答が母親にみられますが、それぞれ2.2%、14.7%となっています。

また、現在育児休業中の母親における取得予定期間については「10～12 か月」が46.2%で最も多く、次いで「13～15 か月」と「16～18 か月」が同率で23.1%となっています。一方、取得したことがある母親の取得期間についても、上記予定期間と同様に「10～12 か月」が57.0%で最も高くなっています。

育児休業の取得状況(就学前児童)



育児休業の取得期間(就学前児童)





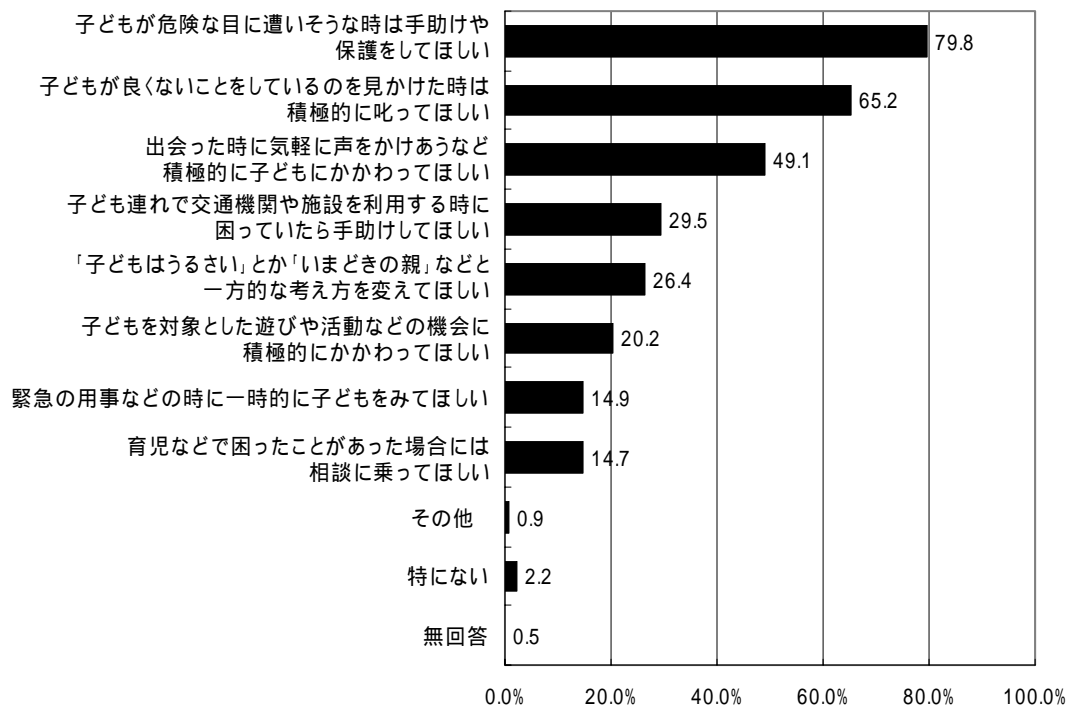
## 1-6 子ども等の安全の確保について

### (1) 子育てをする上で地域に望むこと

「子どもが危険な目に遭いそうな時は手助けや保護をしてほしい」が79.8%で最も高く、次いで「子どもが良くないことをしているのを見かけた時は積極的に叱ってほしい」が65.2%、「出会った時に気軽に声をかけあうなど、積極的に子どもにかかわってほしい」が49.1%と続いています。

子育てをする上で地域に望むこと(就学前児童)

n=584



## 2

## 推進協議会委員及びインタビュー調査からの意見

## 2-1 地域における子育ての支援について

<p>子育て支援サービスの充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 病後児保育の整備（病院や認可保育所・地域子育て支援センターでの対応）</li> <li>• ファミリーサポートセンターの整備（またその役割を持つ NPO 法人の育成など）</li> <li>• 保育サービス及び子育て支援サービスの連携をより進めるための総合施設の整備</li> <li>• 相談窓口の充実、一本化</li> <li>• 身近な場所で子育て中の親同士や先輩ママとの交流が気軽にできる場の整備と充実（保育サービスを利用していない家庭への支援のために）</li> <li>• 社協への委託による子育て支援ヘルパー等の実施</li> <li>• 全小学校区への放課後児童クラブの設置（実施施設や運営方法などについては柔軟な考えにより全小学校区で実施）</li> <li>• 長船地区における地域子育て支援センターの整備</li> <li>• 一時保育の充実（子どもは家で母親がみるもの、働いていたら認可保育所、働いていなかったら家という観念の払拭も含め）</li> <li>• 平成 16 年度より社協で実施している点数備蓄型在宅支援事業（ゆめちゃんサービス）に将来は子育て支援も含める計画で進めている</li> <li>• 週に 2 日でも親から離れて集団で遊べる場（3 歳以上対象）</li> <li>• 子ども連れでのサークル活動など気兼ねなく利用できる場所の確保</li> <li>• 母親等の養育者が病気になった時などに利用できるショートステイの整備</li> </ul>
<p>保育サービスの充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 夫婦共稼ぎ社会を踏まえた多様な保育サービスの整備（延長保育や乳児保育の充実）</li> <li>• 保育サービスの充実による子どもへの親のかかわりが希薄化することが心配</li> <li>• 待機児童の解消</li> <li>• 幼稚園での預かり保育の充実</li> <li>• 保育料の見直し</li> </ul>
<p>児童の健全育成</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 児童館など児童の居場所の整備</li> <li>• 引きこもりや不登校児童・生徒への対応のネットワーク化（学校の対応だけでなく、行政、民生委員・児童委員、専門医、地域ボランティア等のネットワーク化による支援を充実）</li> <li>• 性教育の充実</li> </ul>

児童の健全育成 (つづき)	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 公民館における児童健全育成の推進</li> <li>• 世代間交流の推進</li> <li>• 昔のように地域の子どもにみんなで声を掛け合うような取り組みの実施</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 祖父母に子育てに参加してもらうことの良さや必要性を PR し、家族や親族の機能の回復を図ることが必要</li> </ul>

## 2 - 2 母性や乳幼児等の健康の確保及び増進について

子どもや母親の健康の確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 母親学級への参加や乳幼児健診の受診率を高めるための工夫が必要（実施する時間帯や曜日の工夫など）</li> <li>• 乳幼児健診の未受診者など、引きこもりがちな親子等へのフォローの強化</li> <li>• 健常児でない子を持つ親や家庭環境に悩みをもつ親などへの見守りや支援の強化</li> <li>• 充実した母子保健事業が実施できる行政の体制づくり</li> <li>• 愛育委員活動の充実（乳幼児健診や新生児訪問等の母子保健サービスとのより一層の連携強化）</li> <li>• 温水プールの整備や健康増進指導員の養成等による子どもから高齢者まで全ての市民を対象とした健康づくりの推進</li> <li>• 不妊治療に関する情報提供</li> <li>• 子どものアレルギーに関する相談や情報提供</li> </ul>
「食育」の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 朝食を食べてない子どもの増加を含め子どもの食生活の乱れが感じられる</li> <li>• 食育を推進する観点から、国の調理室設置規制撤廃論への市としての反対要請</li> <li>• 食育に関係する各施設担当者や関係機関による協議会等を組織し、市として一貫した具体的な指針の策定及び乳幼児から児童、成人、母子など年齢に応じた推進体制づくりが必要（食を通した子どもネットワーク事業等）</li> <li>• 母子保健における食の大切さに関する学習機会の拡充</li> <li>• 乳幼児健診時などでの食に関する学習機会（試食等）</li> </ul>
思春期保健対策の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 性や性感染症予防に関する正しい知識などは、親子でもなかなか話しづらいこともあるので、学校における教育や学校外での講演等をもっと充実していくことが必要</li> <li>• 性の問題、喫煙、薬物等について学校における児童生徒への教育だけでなく、地域住民も子どもたちが正しく成長する手助けができるよう、正しい知識を得る機会を設け子どもたちを見守る気持ちを身につけることが必要</li> </ul>

小児医療の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 市内における小児医療体制の確保（精神的なフォロー体制も含め）</li> <li>• 小児救急に関する情報提供の強化</li> <li>• 市内には小児科医がいないため、他市町の医療機関を利用しているが、ぜひ市内に小児医療体制を確保して欲しい</li> <li>• 以前、市内の医療機関に夜間診療を頼んだが断られたことがある</li> </ul>
---------	---

## 2-3 子どもの健やかな成長を目指した教育環境の整備について

次代の親の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 男女が協力して家庭を築くことの教育が必要</li> <li>• 小中学生の体験学習（チャレンジワーク）等における乳幼児とのふれあい体験の推進（より充実した内容とするための関係機関における連携強化）</li> <li>• 夏休みにおける認可保育所での中高生ボランティアの推進</li> <li>• 子育てをするにはお金がかかるとの意識を変えるための出産祝い金の支給</li> </ul>
子どもの生きる力の育成に向けた学校の教育環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 交通安全、不審者・変質者等への対応を学校だけでなく地域・関連機関が連携して取り組むことが必要</li> <li>• 不登校や学習障害な様々な課題に対応するためには、少人数クラスの推進または対応する教諭を配置するなどマンパワーの充実が必要</li> <li>• 文化財（寺・神社等）の活用による日本人の中に流れている自然との融合、信仰、生き方の教育</li> <li>• 幼稚園における3年保育の実施（4歳入園などの弾力的な対応を含め）</li> <li>• 入園幼稚園指定の廃止（希望する幼稚園への入園を可能に）</li> <li>• 幼稚園における体験活動の充実</li> </ul>
家庭や地域の教育力の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>• サークル活動や地域の中で世代間交流をより充実させ、遊びなど文化を伝承していくことも必要</li> <li>• 地域における行事など地域交流機会の充実</li> <li>• 子育て講演会等の充実</li> </ul>

## 2-4 子育てを支援する生活環境の整備について

良質な住宅の確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域に溶け込みやすい位置に賃貸住宅を整備</li> <li>子育てや介護に配慮した広くゆとりある住宅が確保できるよう情報の提供</li> </ul>
良質な居住環境の確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>シックハウス対策施工済みを表示した住宅（業者への要請）</li> </ul>
安全な道路交通環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>安全な通学路の整備</li> <li>運転者マナーの厳重な取り締まり</li> <li>ブルーライン無料化による交通量増に対応した市としての交通安全施策の推進</li> <li>ベビーカーを押して歩きやすい歩道の整備</li> </ul>
安心して外出できる環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>大人と子どもが一緒にできるトイレ、オムツ交換や授乳のスペースなど、公園・公共施設における子育て家庭等配慮した機能整備（実際に使用する人の意見を聞いた上で）</li> <li>自然の中でゆったりと過ごせ、年齢が小さくても楽しめる場の整備</li> <li>あいさつ運動の推進</li> </ul>

## 2-5 職業生活と家庭生活の両立の推進について

多様な働き方の実現及び男性を含めた働き方の見直し等	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業主に対する行政からの強力な啓発指導（男性による育児休業取得への働きかけを含む）</li> <li>賃金格差の問題を考える（行政としてどんな働きかけができるのか）</li> <li>子育てや家庭での男性の意識を変えていくよう啓発・教育が必要</li> <li>固定的な性別役割分担の解消に向けた男性女性両方における学習機会及び相互理解を深めるための場</li> </ul>
---------------------------	--

## 2-6 子ども等の安全の確保について

子どもの交通安全を確保するための活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>チャイルドシート使用の普及啓発</li> <li>チャイルドシートの普及促進のために市による安価な貸出し</li> <li>認可保育所や幼稚園における安全教育の推進</li> <li>子どもの交通事故防止のための安全教育の徹底とドライバーの運転マナーの指導</li> </ul>
-----------------------	--

子どもを犯罪等の被害から守るための活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 地域への意識啓発、通学中や放課後の子どもへの声かけ・見守り体制の整備（有償ボランティアの活用も含め）</li> <li>• 防犯ボランティア活動の支援</li> <li>• 子ども110番の制度をより充実させるための検討</li> <li>• CAP講習会の拡充</li> <li>• 身近に起こっていることの内容をすばやく家庭や地域に知らせ、地域で子供の安全を守るようなネットワークの構築（地域住民における防犯意識の高揚）</li> </ul>
被害にあった子どもの保護の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 面と向かって話すことが苦手な子どももいると思うので、インターネットの活用による相談体制の整備</li> <li>• 心理学を勉強している大学生などのサポートも必要（年齢が近いので相談しやすいかもしれない）</li> <li>• PTSD（心的外傷後ストレス障害）の適切なフォロー（カウンセラーの設置）</li> <li>• 専門の機関や人材の確保だけでなく、学校の先生や友人など身近な人による理解とフォローも大切</li> <li>• 身近な場所での相談体制の確保</li> </ul>

## 2-7 要保護児童への対応などきめ細かな取り組みの推進について

児童虐待防止対策の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 虐待に関するネットワークを整備し、専門機関との連携・相談・助言がスムーズにできる体制が必要</li> <li>• 関係機関との連携のもと活動するボランティア組織も要検討</li> <li>• 虐待発見時の対応に関する市民への周知</li> <li>• 気兼ねなく相談できる場所の整備（電話相談も含め）</li> <li>• ひとり親を支援する支援員の派遣</li> <li>• 行政における児童福祉司の配置</li> </ul>
母子家庭等の自立支援の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 保育ママ制度の検討及び家庭に入ってくるためのマニュアルづくり</li> <li>• 真の支援のために当事者ニーズを把握</li> <li>• 認可保育所の入所への配慮及び母親の就業斡旋など</li> <li>• 幅広い対応ができる安価なヘルパーの派遣（社協やNPO法人等による実施）</li> <li>• ショートステイの整備や保育園への送迎などの整備</li> </ul>

障害児施策の充実	<ul style="list-style-type: none"><li>• 軽度発達障害等の乳幼児健診での早期発見及び早期治療体制の確立（発見時から一貫した支援システムの構築）</li><li>• 障害児も安心して勉強できる教育環境が必要</li><li>• 障害児やその家族を温かく見守る地域づくり</li><li>• 認可保育所や幼稚園における障害児受け入れ体制の充実（職員体制の充実）</li><li>• 医療機関や関係機関との連携による相談体制の充実</li></ul>
----------	---